



19世紀末世界資本主義の「中核」「周辺」関係史

人間文化学部 国際文化学科
准教授 小平直行（こだいらなおゆき）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1826号室
Tel 082-255-9247 Fax
E-mail kodaira@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 歴史学・西洋史

キーワード： 世界システム、「帝国主義」、中核-周辺関係、解放闘争

● 現在の研究について

19世紀末はイギリスの覇権世界（「イギリス自由貿易帝国」）から多極的世界（「帝国主義」）への移行期であり、またこの時期に「世界経済」の「長期的構造」としての「中核」・「周辺」関係は、「中核」諸国の経済的変容（独占資本の形成）にともなって、新たに支配・従属の関係を深めつつ、19世紀後半に中核および「周辺」諸国内に出現した諸解放運動・闘争への反動・反革命として編成された。

このような観点から本研究では、19世紀後半から20世紀初頭にかけての米国史・環大西洋史を中心とした西洋史について、とりわけ、

(1)主に「大不況期（1873～96年）」の環大西洋世界における「世界経済」の変容とそれともなう「国家間システム」の変容について、

(2)世界の多極化と米国の経済的変容（主に独占資本の成立）にともなって、それらを根拠とし、またそれらを結果した「中核」・「周辺」関係の再編成・深化について、

(3)米国南部などにおいて奴隷制度廃止後によって出現した新たな社会的主体による解放運動・闘争の生成、およびその体制内化・蹉跌について、研究しています。

● 今後進めていきたい研究について

「大不況期」～第1次大戦期の世界史（環大西

洋史）について一書をものしたい。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

現在から一世紀半ほど前のそれも他国・他地域の事象を対象とし、それも事象の観念的再構築をめざしている本研究は、直接的には現在の地域社会の課題解決には役に立ちそうもありません。ささやかな応用が可能すれば、社会・歴史観に関わる領域でしょうか。

● これまでの連携実績なし。